



Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

第11回 慰霊祭開催

追悼の辞を述べる平尾会長



参会者後列左から四人目、ゲーペル武官



恒例のドイツ軍人慰霊祭は、小春日和の11月20日(日)11時から習志野霊園で45名の会員、関係者を集めて行われた。

例年の通り西阪知見事務局長の司会で追悼・慰霊の辞はドイツ大使館のヘルムート・ゲーペル陸軍大佐、平尾浩三当協会会長(下記)、船橋市長代理の寺尾一男環境衛生課長、荒木勇習志野市長が述べられた。30柱の御霊紹介は、橋口昭八常任理事が読み上げ、軍人葬送歌「よき仲間」を全員で合唱。一人ずつ献花をして、記念撮影を行い12:15から直会。今回は特別参加として、シナノ企画の野口正敏氏が来年6月に封切となる東映映画「バルトの楽園(がくえん)」について説明し、エキストラとして出演するジャーナリストのクリストフ・ヘンドリックス氏を紹介された。

なお参会者には、林静誠顧問より非常時用缶詰、古川修司さんから故郷長野の大きなりんごが土産として配られた。御礼申し上げます。

第一次大戦病没ドイツ将兵俘虜慰霊祭にて捧げし言葉
(当日は独日両語)

会長 平尾 浩三

尊敬する在日ドイツ連邦共和国大使館国防武官陸軍大佐 ヘルムート・ゲーペル殿、船橋市長代理 寺田一男殿、習志野市長 荒木勇殿、第一空挺団長代理 二等陸佐 浜本俊夫殿、そしてご参列の皆様！千葉県日独協会の名において、心からなるご挨拶を申し上げます。

ここ習志野には第一次大戦当時、ドイツ将兵のための俘虜収容所がございました。第一次大戦において日本は、当時結ばれていた日英同盟に基づき、ドイツに対して戦い、ドイツの租借地であったチンタオを攻略して、約四千七百名のドイツ将兵を日本へ移送したのでありますが、内千名近くの方がたが、ここ習志野の地に収容されておられたのであります。

この地に置かれていたのは、確かに「俘虜収容所」であった。しかし第二次大戦に見られたような、そして今日の世界になお跡を絶たないような、悲惨と残酷を、そこに思い描くべきではありません。俘虜として暮らすドイツの方がたの毅然たる生活態度と秩序愛に、私たち日本人は感動し、俘虜の方がたの行動に接して、私たちはいよいよますますドイツ文化を愛し、尊敬するに至ったのであります。国際政治的次元における対立関係にもかかわらず、両国民間の友情は、この体験によって、いっそう固められたのであります。

エピソードの一つが日独協会理事 歌田実さんのご母堂は、この地の小学校訓導であられ、生徒たちを連れて収容所をしばしば慰問に訪問されて、同時に生徒たちがヨーロッパ世界を垣間見る機会をお作りになったのであります。ある俘虜の方から手作りのポトルシップを、つまりビンの中に船の模型の入った工作品をプレゼントされ、それは今日なお習志野市庁舎に飾られているのであります。

(次頁へ続く)

～今後の主な催物案内～

▶ 新春講演会

講師：明海大学客員教授 石河正夫氏（当協会会員）
 演題：「国際政治の本質と外交のウラ・オモテ」
 日時：2月4日(土) 14:30～17:00
 場所：千葉大学けやき会館内「コルザ」
 JR西千葉駅下車、徒歩6分千葉大正門横。
 電話：043-256-2006
 会費：2,500円

▶ デュッセルドルフ市のジャパンデー参加ツアー

5月19日～20日の同市ジャパンデーに参加し、ロマンティック街道他を巡るツアーを企画中です。詳細次号。

▶ 会員による諸活動

「千葉県日独協会会員」と伝えて申し込んで下さい。

1. 「ドイツ語読書会」開始のお知らせ

講師：平尾浩三会長
 日時：1/26、2/9、2/23、3/9、3/23の14:30～16:30
 場所：船橋中央公民館(JR船橋駅より徒歩5分)
 費用：会場費雑費など5回で3,500円
 問合せ：館野(047-485-9311)・水野(047-467-6306)
 布施(047-424-7645)

2. 「フリーリングス・コンサート」(高橋麻里子さん)

曲目：モーツァルト、シューマン、ショパンから
 日時：3月10日(金)18:30～20:30
 場所：千葉生涯学習センター
 (JR千葉駅東口又は西口より徒歩8分)
 会費：大人2,500円・ペア4,000円・小中高生1,500円
 申込：TEL/FAX 043-253-6234 吉田さん

3. 「ソプラノリサイタル」(上条系子さん)

日時：3月14日(火) 19:00～
 場所：すみだトリフォニー (JR錦糸町北口徒歩5分)
 会費：3,500円
 申込：TEL/FAX 047-468-3450 上条さん

『ドイツに親しむ三日間』 特集 2 広報活動余話 副会長 国枝誠昭

この度の「ドイツに親しむ三日間」では、イベントを企画した当初から難題の一つは「広報」であった。いろいろ議論したが、他に良い方法がなく結局、チラシを配って歩く、つまり足でPRしようという作戦を立てた。

そこで先ずチラシの作製につき8月半ばに印刷会社S社に接触、調査したが、我々の予算レベルとは比較にならない高いものであった。このS社のレベルは、後で分かったことだが、世間並であって我々の予算が非常に厳しいレベルのものであったということらしい。とにかく予算厳守の考えからS社を諦め、次にF社に接触、ハードな交渉の結果何とか我々の希望レベルで協力してもらえることが確認でき、チラシ作製に入った。

この頃、広報上大変な朗報が入った。今年から千葉県とデュッセルドルフ市が友好交流を行うことになり、「県民だより」9月5日号に国際交流の特集が生まれ、その中で「ドイツに親しむ三日間」を紹介してくれるという。

一方8月末にはチラシの素案も固まり、それをベースに千葉大院生駒橋透さんにデザインをお願いした。独創的なデザインのチラシが9月4日完成。かくしてPRや「県民だより」掲載効果で増えるであろう問い合わせなどにそなえプリペイド式携帯電話も購入して対応した次第である。

俘虜の方がたは大部分、戦後、帰国なさったのですが、約三十名の方がたは、暴威を振るったスペイン風邪のために、祖国の土を二度と踏むことなく、悲しいかな、ここ習志野の地に亡くなられました。異国で斃られた方がたの冥福を祈り、全地球上に平和の訪れんことを、切に、切に願いつつ、私たちはきょうこの慰霊碑の前に立つ。そして遥げきドイツ・シュヴァルツヴァルトよりこの庭に移し植えられた、ドイツ柏の下に佇む。

ここに感謝をこめて挙げさせていただきますのは、故石崎申之氏のお名前でありました。石崎氏は、わが日独協会の設立されるまでのある時期にはかなり荒廃していたドイツ将兵墓碑を、献身的にお世話くださりました。そしてご令息、医学博士石崎満氏は、今日に至るまで、その志を継いで活動しておられます。

終わりに思い出を一つ：ここに祀られている方がたと共に、捕虜としてこの地に過ごし、第一次大戦後帰国されたが、後に再び来日し、亡くなるまで日本に暮らされたあるドイツ人教授を、私は直接に存じ上げておりました。いつも多くの日本人の友達や弟子に囲まれておられたその先生が、私たちに教えてくださった詩から引用致します

Und so lang du das nicht hast,
 Dieses: Stirb und werde!
 Bist du nur ein trüber Gast
 Auf der dunklen Erde. Goethe

死して、新たなる生に、生まれ出でよ！
 そを為(な)してこそ、君は
 暗き地上の
 悲しき客人(きやくびと)に、あらざらむ。
 ゲーテ